

光星5回一挙4点



【八戸西—八学光星】5回裏、八学光星1死満塁、浦野が右翼線に2点適時打を放ち5—5の同点＝八戸市長根公園

八西 8回痛い逸機

【評】3点を追う八学光星は五回1死、2四球で好機を迎えると、久守の左翼線への適時二塁

打、浦野の右翼線への2点適時打などで4点を挙げて逆転。三回途中から登板した洗平は6回を10奪三振の無失点に抑え、追加点を許さなかった。八戸西は先発中田が五回、制球が乱れ途中降板。継投も実らず、相手打線

を抑えきれなかった。打線は四回以降無得点。八回には得点圏に走者を進めたものの、後続が倒れた。3回に救援、逆転呼ぶ

「まずは流れを変えよう」と思って、最初から飛ばしていった。低めに変化球を集めていったのが結果につながって良かった」と笑顔を見せた。1点差という緊迫した状況が続いただけに、疲労感は一歩あるという。準決勝に向けて「登板は絶対あると思う。良い投球ができるようにしたい」と意気込んだ。

春季

県高校野球

第3日

春季県高校野球選手権は第3日の18日、八戸市の2球場で準々決勝4試合を行った。東奥蔭塾は青森商との息詰まる投手戦を制し、2013年度以来8年ぶりのベスト4進出。打撃戦となった八工大―聖愛は、5番葛西の満塁本塁打など3発を放った八工大に軍配が上がった。2回戦で青森山田を破った八戸学院光星は、センバツ出場の八戸西に逆転勝ち。11年ぶりベスト8進出の八工大―は、五所川原にコールド勝ちした。大会第4日は22日、八戸市の長根公園野球場で八工大―八工大―、東奥蔭塾―八学光星の準決勝2試合を行う。(本紙取材班)